ほぼ週刊 輝けとわに 第166号
2021.11.8
〒247-0005　横浜市栄区桂町84-14　TEL：892-2155　FAX：892-9241　横浜市立本郷中学校
ホームページ　https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/hongo/　校　長　湊　浩一

【学校教育目標】　自ら学び　ひととつながり　しなやかに未来を拓く人
【学校スローガン】　あ（挨拶）　せ（清掃）　か（感謝）　け（けじめ）

みんなちがって、みんないい

校　長　湊　浩一

巷（ちまた）には「多様性（ダイバーシティ）を尊重しよう」的なフレーズが溢（あふ）れ返っています。どうして多様性が求められるのか考えてみましょう。例えば、映画「ハリー・ポッター」を思い出してください。英国が舞台ですが、アフリカ系や中華系の生徒たちが登場します。また「スター・ウオーズ」の最新作は、女性の主人公が活躍し、それを支える脇役は同じようにアフリカ系や中華系の役者でした。映画の多くは米国で制作されますが、全世界に配給されます。そのため、観客が出演者に共感をもてるよう、男女の区別なく多様な人種を配置するのです。収益向上を狙った企業戦略ですが、違和感や抵抗感は感じません。多様性を取り入れた見事な戦術です。

また、多様性には表層的多様性（性別、人種、国籍、年齢、性的指向、性自認、障害の有無など）と、深層的多様性（価値観、宗教、経験、嗜好、受けてきた教育など）があります。障害や人種、性別といった、生まれ持った特徴で変えることができない比較的わかりやすいものが表層的、考え方や価値観といった一見わかりにくい内面的なものが深層的となります。そして、現代社会における一般的な文脈では、少数派（マイノリティ）の人たちがこれらのことに関して社会から十分な理解を得られず、苦しい思いをしていることを解決するために、「多様性を尊重しよう」ということになるわけです。また、一般企業においては、生産性を高める手段として活用されます。

さて、この話題を枕にした理由は、多様性を認め合うことができる本郷中になってほしいからです。本校は前校長の半澤スピリットを受け継ぎ、いじめの認定を積極的に行い、その解消に努めていますが、残念ながら根絶には至っていません。根絶するためには、生徒の皆さん一人ひとりが、多様性を認めることが必要だと考えています。具体的には、互いの違い（特徴）を認め合うことです。また、それだけではなく、同じ考えの人たちが集まった集団は足し算ですが、多様な考えの人たちが集まった集団は掛け算になります。僕が最後に担当した学級は、超個性的なメンバーでした。少し時間はかかりましたが、クラスとしてまとまり始めると、様々な場面において、僕の想像を軽々と超える力を発揮してくれました。**違いは力**に変換されます。

本中生の皆さん、自分と違う人を排除することなく、違いとして認められる人になりましょう。そして、違いを違いとして認め合える本郷中をつくりましょう。誰もが差別や偏見なく学べる学校は、誰にとっても生活しやすい学校となり、いじめのない学校になります。そして、皆さんの一人ひとりの力が積（掛け算）に変換されて、本郷中はバージョンアップします。さらに、学校（学級・学年・委員会・部活動）が多様性を尊重する有機的な集団になることで、間違いなく皆さんの能力は開花します。個が変わることで集団が変わり、集団が個の力を引き出します。そのためにも、やわらかな頭としなやかな心をもった人を目指しましょう。詩人の金子みすずさんは、100年も前に多様性社会の必要性を予言していました。「みんなちがって、みんないい」と。